

## 入域観光客統計概況

- 平成 17 年 8 月分 -

平成 17 年 9 月 21 日  
沖縄県観光商工部

8 月の入域観光客数は、563,600 人。前年同月比は、+7.7% (+40,200 人) で、同月の過去最高を記録した。  
1 月～8 月までの入域観光客数は、3,640,400 人。前年同期比は +5.0% (+174,900 人) で同期間の過去最高を記録した。

### 1. 国内外別入域状況

国内：548,900 人 前年同月比 +7.2% (+36,700 人)  
海外：14,700 人 前年同月比 +31.3% (+3,500 人)

### 2. 主要航路別入域状況

東京	255,200 人	前年同月比	+6.5% (+15,600 人)	構成比	45.3%
大阪	116,900 人	前年同月比	+9.7% (+10,300 人)	構成比	20.7%
福岡	66,700 人	前年同月比	+4.7% (+3,000 人)	構成比	11.8%
名古屋	51,400 人	前年同月比	+17.9% (+7,800 人)	構成比	9.1%

### 3. 概況と見通し

8 月の入域観光客数の概況としては、国内客については、沖縄観光のトップシーズンを迎え、キャリアやエージェントの積極的な販促活動が展開されたことや、航空路線の増便（関西路線、伊丹路線、名古屋路線）、夏休み期間の輸送実績が好調に推移したことなどにより前年実績を上回った。

外国客については、韓国路線の増便や定期クルーズ船の運航が好調に推移したことや、台風の影響が前年より少なかったこともあり、前年実績を上回る事となった。

今後の見通しとしては、9 月上旬の台風の影響が懸念されるものの、航空路線の増便（上海路線、羽田路線）や使用機材の大型化（札幌路線）、秋の修学旅行シーズンに入ることなどにより増加することが見込まれる。

担当：観光企画課 上原奈津子  
TEL 098-866-2763  
FAX 098-866-2767

## (財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント(要旨)

## 1. 国内

**東京事務所(関東地区)**

キャリアやエージェントの積極的な販促活動や、昨年に比べ台風の影響が少なかったことなどにより入域客増となった。

修学旅行シーズンを迎えることや、国内旅行の目的地として沖縄人気が続いていることなどから今後も好調に推移するものと思われる。

**大阪事務所(大阪地区)**

沖縄観光のトップシーズンを迎え、企画商品が好調に売れ行きを伸ばしたことや、マスメディアへの露出が高くなったことなどが入域客の増加につながった。

秋の旅行シーズンに入り、大手旅行社の申込み状況が対前年比で 20% 以上伸びていることから、好調に推移するものと思われる。

**福岡事務所(九州・山口地区)**

8 月の前半は台風の影響でキャンセルが発生したが、後半は個人型旅行や家族旅行、団体旅行が増加し、入域客増となった。

9 月上旬は台風の影響を受けたものの、10 月、11 月は団体旅行や修学旅行が好調に推移すると思われる。

**名古屋事務所(名古屋地区)**

昨年に比べ台風の影響がほとんどなかったことや、航空機材の大型化により旅客数が大幅に増加した。

10 月以降は、愛知万博が終了することや、安価な商品が提供できることなどにより好調に推移すると思われる。

**北海道観光・物産情報センター(北海道地区)**

経路便の実績は、航空会社 2 社合計で前年同月比 2 桁以上の伸びとなり、2 月から連続して前年を上回っている。

9 月以降は、直行便が再開され機材も大型化されることから、各旅行代理店とも沖縄キャンペーンを積極的に展開している。一般旅行客の動向も好調であることや、10 月～11 月は修学旅行シーズンであることを考えると今後も好調に推移するものと思われる。

## 2. 海外

**台北事務所**

定期クルーズ船の寄港回数が昨年よりも多かったため、入域客全体としては増加しているが、昨年は 10 月まで運航していた高雄 - 那覇間のプログラムチャーター便の運航が 7 月末で終了したため、空路による入域客は約 10% の減少となっている。

台風の影響や、高雄 - 那覇間のプログラムチャーター便の運航が終了していることなどにより、今後は台湾からの入域客数は減少する見込みである。

**韓国事務所**

8 月 23 日から韓国路線が 1 便増となり、それを記念した旅行商品の販売が実施されたことなどにより、前年実績を上回ることとなった。

増便を記念した旅行商品の集客状況は 9 月も好調であるが、10 月以降は他地域と比較すると価格面で競争力が弱く、苦戦する見込みである。

**上海事務所**

上海においては、沖縄はまだ観光地としての知名度が低く、上海を含めた中国人の入域者数は非常に低いレベルにとどまっている。

上海路線が週 2 便から週 5 便へ増便となるため、沖縄や上海の航空会社や旅行社などと連携し、新たな旅行商品の開発や宣伝活動を強化することにより、週 7 便運航のあった前年以上の実績を達成できると思われる。